

理科 指導方法の課題分析と授業改善策

	ア 指導方法の課題分析	イ 具体的な授業改善策	ウ 補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	○「理科の勉強は好きだ」と感じている生徒は多いが、理科の知識や科学的な見方や考え方を活用する力を伸ばす指導に課題がある。	○理科で学習した知識や技能に関連した自然の事物・現象や科学技術などについて、考えたり説明したりする学習活動を充実させていく。具体的には単元の終わりに、その単元で学習したことと日常生活との関わりについて調べ、考えさせる学習活動の回数を増やす。	○学習内容の定着に時間を要する生徒については、教科の授業時間外に個別に指導する時間を設ける。
第二学年	○授業中の観察・定期考査によると、「理科を好きな教科である」「得意教科である」と感じている生徒の割合が少なく、科学的な思考力や表現力に課題があるので、観察、実験などの技能の向上や結果の考察・表現力を充実させることに課題がある。	○科学的な思考力・表現力を高めていくための指導方法の工夫として、授業の中で、実験・観察の結果を生徒間で共有するなど対話を通して、時間をかけて追究する学習形式をとる。また日常生活との関わりについて考えさせる学習活動も多く取り入れる。	○小学校や1年生で学んだことを確認しながら教科書や資料集の発展課題を取り上げ、実験・観察や演示実験等により関心、意欲を高める。個別の課題を設定し向上を図る。視聴覚教材等の学習教材を適宜使用し、更に意欲を高める。
第三学年	○観察・実験の技能と科学的な思考・判断力を身に付けさせる指導が不足している。 ○地学分野に関しては理解を深める指導が必要である。	○観察・実験を重視し、予想（仮説）から考察までの流れの中で、原理・原則や知識を基に結果について考察し、自らの言葉で表現する学習活動を増やしていく。 ○地学的分野の中の特に気象分野に関して基礎的基本的な内容の定着をはかる指導を行う。	○観察・実験を重視する中で学習のまとめとして、他の単元との関連を含めて振り返り、学習内容の定着を図っていく。また自然事象を総合的に捉え、科学的な思考力を伸ばす指導を取り入れる。 ○日常生活の中で学びを生かせるよう、学習内容と関連のある自然事象について紹介する。基礎的事項の定着を図る学習活動の回数を増やしていく。